

感染研市民セミナー(第35回)

「暮らしに役立つ病気の知識」

いわゆる「人食いバクテリア」の正体とは？

国立感染症研究所(村山庁舎)では、毎日を健康に明るく過ごすための情報を、分かりやすく提供する市民公開セミナー「暮らしに役立つ病気の知識」をシリーズで開催しています。

1980年代、突然の血圧低下、発熱、手足の激痛で発症し、治療をする間もなく急速に進行して死亡する新たな感染症がアメリカで報告され、わが国でも1992年に最初の症例が報告されています。それ以来、「人食いバクテリア」としてニュースなどで度々取り上げられており、今年の報告数が過去最多(8月25日現在284例)となったという報道を目にされた方もいるかと思います。

- ・「人食いバクテリア」はどんな菌なのでしょうか？
- ・どのようにヒトに病気を起こすのでしょうか？
- ・万が一罹った場合どのように治療すればよいのでしょうか？

本講演では、この病気に関してこれまでわかってきたことを紹介します。

皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

講師:阿戸 学(免疫部 部長)

(質問コーナーもあります。)

日時:平成27年11月28日(土)

10:00~11:15(受付は9時半より)

場所:国立感染症研究所村山庁舎

参加費:無料 (申し込み不要)

お問い合わせ

東京都武蔵村山市学園4丁目7番1号

国立感染症研究所村山庁舎

TEL: 042-561-0771

FAX: 042-565-3315

